

NEWS& TOPICS



紀州地域本部



不知火 シーズン到来!

紀州選果場では1月下旬より、不知火の出荷を開始しました。今年産は例年並みの約200トンを見込んでおり、東京、大阪、宮城、富山など全国の市場へ出荷します。不知火は『ポンカン』と『清見』の交配品種で中晩柑類の中でも甘みが強く、味が濃厚で食味が良いのが特徴。中でも大きさ6.7センチ以上、糖度13.0度以上、酸度1.0度以下の品質基準をクリアしたものは『デコボン』として出荷しています。また、より酸味を抑え、まろやかな味わいに仕上がるよう、収穫してから約1か月半、冷蔵貯蔵する『後期デコボン』も出荷しており、柑橘類が少ない4月中旬に出荷することで有利販売に繋げています。

JA担当者は「今年はほどよい酸味があり、より一層美味しい不知火に仕上がっています。是非食べてみてください」と話します。

1/25 みんなの美山食堂に協力

紀州地域本部は地域貢献の一環として、こども食堂の活動を応援しており、日高川町保健福祉センターで定期的に開催されているこども食堂「みんなの美山食堂」に協力し、食材として高糖度ミニトマト「優糖星」を提供しました。「優糖星」はサラダなどの料理に使われ、子どもたちから「美味しい!」と大好評でした!また、同時にJA職員による「食育セミナー」を開催し、農産物や紀州地域本部に関する〇×クイズも実施しました。正解上位者には、同地域本部の特産品 とまと梅のプレゼントもあり、会場は参加した約50名の子どもたちで大いに盛り上がりました。



1/29 堺市で梅と豆の出前授業を実施!



紀州地域本部では関西広域連合のエリア内で和歌山の特産品を広めるとともに、野菜や果物の栽培方法や歴史、食べ方などについて食育の推進を図ることを目的として、毎年、出前授業を実施しています。今年は大阪府堺市の鳳南小学校を訪問し、約170人の児童を対象に授業を行いました。授業では、JA職員が生産量日本一を誇る南高梅やウスイエンドウの紹介をした他、梅シロップ作り体験やウスイエンドウの豆むき競争も実施しました。会場は終始笑顔に包まれ、楽しみながら和歌山の農産物の魅力を知っていただくことができました。

管内の小中学校でも出前授業を実施!

紀州地域本部では、地元の子どもたちにも、地域で栽培されている農産物についてしっかりと知ってもらいたいという思いから、今年度より、管内の小中学校を対象に「和歌山の農産物出前授業」を実施しています。2月から3月にかけて計7つの小中学校で実施し、約250人の児童が授業を受けました。JA職員による農作物の紹介やクイズ、梅ジュース作り体験、ウスイエンドウの豆むき競争、豆ごはんおにぎりの試食など楽しい内容が盛りだくさん。食べて、学んで、体験して、紀州の食の魅力を感じてもらえる時間になりました。



JAわかやまは ジュニア駅伝を 応援しています

2月8日、和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会が開催されました。各市町にて行われた壮行会にはJA職員が出席し、選手たちにエールを送りました。また、マフラータオルと紀州地域の特産品とまと梅を贈呈しました。

順位	市町
7位	日高町
11位	日高川町
12位	印南町
14位	由良町
15位	御坊市
16位	みなべ町
19位	美浜町



美浜町



御坊市



日高川町



由良町



日高町



印南町



みなべ町

1/27 中晩柑出荷会議を開催

紀州選果場にて中晩柑出荷会議を開催し、柑橘部会役員、取引市場11社、JAの役職員の合計24名が出席しました。本店販売部より令和7年産柑橘類の販売情勢、営農指導員より

中晩柑の生育概況、柑橘営業担当者からは温州みかんの販売実績や今後の中晩柑の販売計画について報告がありました。その後、市場との意見交換を行い、市場からは市場情勢、計画的な出荷、出荷規格に関する意見・要望が挙がりました。JA関係者からは「担い手の確保や産地の維持・拡大のためにも、今後さらなる販売単価の向上にご協力いただきたい」と要望しました。



2/11 コープこうべが産地研修を実施

コープこうべによる産地視察・研修が行われ、コープこうべの関係者約30名を受け入れました。今回の研修には大阪中央青果および(株)万果の皆さまにもご参加いただき、由良町の八朔園地を見学し、収穫体験を行いました。その後、紀州選果場へ移動し、選果場の見学や八朔貯蔵の個包装作業を体験しました。生産者や営農指導員とともに個包装を行う中で、参加者からは「とても手間がかかって大変な作業ですね」といった感想や、出荷規格に関する質問などが寄せられました。また、生産者からも売り場の様子について質問があり、活発な交流が行われました。その後、市場関係者、生産者、営農指導員を交えたグループ討議も実施され、今回の研修で学んだことや今後の意気込みなどが発表されました。また、販売部によるミニトマトや紀州うすい料理の試食会も行われ、皆さまに紀州地域の魅力を知っていただく機会となりました。



食農教育支援

JAでは、地域の子どもの食農教育を支援しています。営農指導員をはじめJAの職員、青年部員、女性会員などが協力し、お手伝いしています。また、この活動は、JA共済地域貢献活動に係る助成金を活用しています。

1/15 みなべの梅学習

岩代小学校
4~6年生 18名



梅学習の最終工程として「カップ詰め」を実施。完成した梅干しは地域内外のお世話になった方々や関係者へ届けられます。



1/31 第4回「紀州フレンズ」 ウスイエンドウ収穫体験&試食会

「紀州フレンズ」の第4回目の企画として、みなべ町のハウスで、管内が生産量日本一を誇るウスイエンドウの収穫体験を実施しました。当日は園主や営農指導員のほか、豆部会の方々にもご協力いただき、参加者は「どれを採ればいいですか」と、採り方や収穫すべき実の見分け方を教わりながら、ウスイエンドウの収穫を体験しました。その後は、焼きやすい試食会を開催。ウスイエンドウにそのまま塩を振り、アルミホイルに乗せてトースターで焼くだけという簡単な調理方法で、参加者からは「甘みがあってホクホクで美味しい!」「家でもできそう」と大好評でした。

2/8 UME-1フェスタ

みなべ町主催のUME-1フェスタが、みなべ町保健福祉センターで開催されました。紀州地域本部から梅部会も運営に携わり、会場を盛り上げました。高校生による梅料理コンテストでは、弓倉副本部長が審査員を務めた他、豆部会がウスイエンドウの豆むき競争も実施しました。雪も舞う厳しい寒さの中での開催でしたが、たくさんの方が来場し、会場は熱気に包まれました。



1/27-28 JA健康クラブ 検定会

紀州地域本部では地域住民の健康維持や健康寿命の向上を目的に、定期的に管内の各地域で「JA健康クラブ」を実施しています。今回は日常生活を送るうえでの基本的な動作を測定する検定会を実施しました。歩行状態の測定の他、ビー玉すくいやねじ回しなどを行い、手指の状態も



測定しました。測定結果は評価表としてお渡しし、健康状態を確認していただきました。



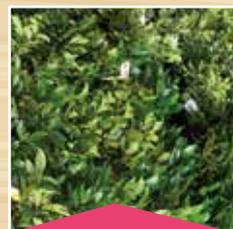
地域住民の健康づくりを応援!

紀州地域本部では組合員・地域住民の健康を守ることを目的に、行政が実施する集団健診を支援しています。今年度は管内7市町で93回にわたって実施し、延べ7,745名が受診されました。受診することで生活習慣病や疾患予防、早期発見・治療をすることができます。今後も、いつまでも健康で安心して暮らせる地域づくりに貢献できるように、行政と連携して取り組んでまいります。



ほんまもんふるさと 産地直売所 からのお知らせ

小菊・輪菊・ビシャコ



サカキ・シキビ等も販売中です!

小菊は赤・白・黄の3種と輪菊は白・黄を販売しています。生産者さんが丹精込めて育てたビシャコです。

常時販売中!

赤糖房

真っ赤に熟した高糖度の房どりミニトマトです。



家庭用のパック入りから贈答用の箱入りの商品など、用途に合わせて商品を取り揃えています!

絶賛販売中!



梅の防除について

◎みづばち回収終了後、幼果が見える前まで（1回目）

- ・かいよう病
- ・Zボルドー（500倍／葉芽発芽前まで）＋クレフノン（200倍）又はICボルドー66D（50倍／葉芽発芽前まで）

※幼果が見えている場合、コサイド3000（2000倍／硬核期まで）＋クレフノン200倍

- ・アブラムシ類
- ・モスピラン顆粒水溶剤（4,000倍／前日／3回）又はウララD/F（4,000倍／7日前／2回）

※ノコメトガリキリガ（通称ハナムシ）多発園では、モスピラン顆粒水溶剤（2,000倍／前日／3回）を散布すると同時防除できます。

※雨が多く灰色かび病の発生が心配される時は、ナティーボフロアブル（2,000倍／前日／2回）を散布しましょう。

- ◎発芽期（2回目）
- ・かいよう病
- ・マイコシールド（1,500倍／21日前／4回）

- ・黒星病
- ・スコア顆粒水和剤（3,000倍／前日／3回）又はナティーボフロアブル（2,000倍／前日／2回）

※カイガラムシ発生園地では、アプロードフロアブル（1,000倍／7日前／2回）又はハダニの同時防除も兼ねアプロードエースフロアブル（1,000倍／7日前／2回）にアピオンE（1,000倍）を加用し、散布しましょう。

- ◎幼果期（3回目）
- ・かいよう病
- ・マイコシールド（1,500倍／21日前／4回）
- ・黒星病

※多雨が予想される場合は、アピオンE 1,000倍を加用すると耐雨性が上がるとともに、漬け梅時の油揚げ症軽減にも効果があります。

- ◎ハダニ多発園
- ・スターマイトフロアブル（2,000倍／前日／1回）またはコロマイト乳剤（1,000倍／前日／1回）を散布してください。

※ハダニは抵抗性がつきやすいため、多発園以外はできるだけ散布しないでください。

- ◎カイガラムシ類多発園
- ・アプロードフロアブル（2,000倍／7日前／2回）又は、ハダニ同時防除としてアプロードエースフロアブル（2,000倍／7日前／2回）を散布してください。

- ◎実肥の施用（時期：4月上旬）
- ・推奨コース（5〜6袋／10a）：（F）フルパワー・南高タブレット・紀州オールセブン
- ・省力コース：てまいらず（7袋／10a）年2回

梅一発（18袋／10a）年1回
◎スカシバコンシを設置しましょう！！40本／100本／10a

県うめ研究所とJAでは、平成21年より試験を実施し、防除効果も確認しています。10aあたり50本を厳守し、地域全体でコスカシバから梅産地を守りましょう。これ以上被害を拡大させないためには、農家一人ひとりの設置が重要です。

地域全体の設置で効果が高まりますので、皆様のご協力をお願いします。

被害が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍（前日／2回）を散布し密度を減らしてください。防除後は速やかに防除履歴の入力をよろしく願います。

果樹柑橘



●剪定

同一園地における着果量のばらつきが大きくなると樹が豊作型か不作型かを見極めて剪定方法を変えましょう。詳しくは、3月号のアグリガイドをご覧ください。

樹全体に光がより当たり、病虫害防除や摘果、収穫作業のしやすさも

考慮しながら樹形作りを行ってください。昨年の夏場の降雨の影響で、黒点病の被害果も多いので、枯れ枝の除去にも努めてください。

- 春肥の施用と春草の除去
- ・春肥は、開花結実や、新梢伸長などを促進させるのに重要ですので柑橘類施肥基準を参考に施肥してください。また、地温の上昇にともない雑草も多くなってくるので除去してください。

- 病害虫の防除
- ・カイガラムシ類の発生が見られ12〜1月にマシン油を散布していない園地では3月中下旬にハーベストオイル又は、アタックオイル80倍を散布してください。また、この時期の散布はミカンハダニや、サビダニの密度を下げる効果があります。

※マシン油を散布する場合前後2週間は薬剤散布を避けてください。

また、かいよう病が発生している圃場については発芽前（3月中旬）に防除を行ってください。防除薬剤はICボルドー66Dの50倍にアピオンE 1,000倍を加用し散布してください。

- 苗木の植え付け
- ・3〜4月にかけて品種更新の時期です。苗木の定植時の注意点は各営農指導員にお問い合わせください。

水稲



土づくり作業

品質の良い米を作るために土壌改

良資材を施用し、土づくりを行いましょう。特に秋落ちしやすい田や収穫後、稲藁を持出された方は、必ず実施してください。

施用例

- ・農力アップ (20kg / 1袋) 5袋 / 10a
- ・アグリハーモニー (15kg / 1袋) 4袋 / 10a

元肥

一発肥料施肥 (例)

- ・エムコート522 「15-12-12」 (20kg / 1袋) 2〜3袋 / 10a
- ・エムコート489 「24-8-9」 (15kg / 1袋) 2〜3袋 / 10a

追肥型・元肥

- ・燐加安44号 「14-17-13」 (20kg / 1袋) 2〜3袋 / 10a

種子消毒

- ・馬鹿苗病・もみ枯細菌病 テクリードCフロアブル200倍 (浸種前 / 1回)
- ・シンガレセンチュウ スミチオン乳剤 1,000倍 (播種前 / 1回)

※24時間浸漬し、種もみ消毒後は水洗いしないでください。

育苗時

- ・苗立枯病 タチガレン液剤500〜1,000倍 (0.5ℓ / 箱)

(播種時及び発芽後 / 2回以内) 又は
ダコニール1000 1,000〜2,000倍 (1ℓ / 箱)

(播種時) 緑化期但し播種14日後まで / 2回以内)

苗箱処理

- ・いもち病、紋枯病、ウンカ類、コブノメイガ、ツマブクロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ スクラム箱粒剤 50g / 箱 (播種時覆土前 / 移植当日)

野菜



ミニトマト

温度上昇に伴い、着色スピードや側枝の発生や草の伸びが速くなり、栽培管理が遅れ気味になりがちです。計画的に作業を進め、高品質果実生産に努めてください。

温度管理

日中のハウス内は高温となります。ミニトマトの最適温度は25度前後と言われており、35度を超えてくると花粉の発現能力低下や草勢の弱りが心配されます。

日々の天候にあわせ、ハウスの開閉具合を調節してください。

日焼け防止の為、3月下旬より遮光(遮熱) ネットの被覆を行ってください。

但し、ネットは日々の天候にあわせ開閉し、ハウス内への光確保に努めてください。

灌水管理

温度上昇に伴い、灌水量を増加させます。しかし一度に多量の灌水を行うと、色ムラ果や軟化果の発生に繋がります。

先月同様に、少量多回数灌水を心掛けてください。

病害虫防除

例年病害虫の多発時期となります。作業遅れないよう定期的に摘葉を行い、被害葉や害虫の卵を圃場外へ持ち出すと共に、予防的な薬剤散布を実施してください。

小玉スイカ

【交配期 / 交配】

- ① ツル引き時には、各ツルの草勢に勝ち負けが出来ないように、ツル先の位置を出来る限り揃え、ツル間を均等にとるなど各ツルに光がよく当たるように行ってください。
- ② ツル引きのタイミングは以下の表を参考に草勢の違いにより調整してください。

<草勢とツル引きのタイミング>

草勢	ツルを引くタイミング
強い場合	交配前7日前後
普通	交配前5日前後
弱い場合	交配前3日前後

※草勢が非常に強く、スムーズな交配が難しい場合、草勢調整を行うため、交配前の葉面散布剤の使用検討する必要があります。

使用の際は、各営農指導員までご相談ください。

【交配前の温度管理】

交配の3日前頃からは、夜温の確保に努め雄花の充実を促しましょう。温度確保のポイントとしては、夕方にハウス(トンネル等)を早め

に閉め、閉めた後にハウス(トンネル等)内の温度が少し上昇する程度を目安に管理しましょう。

【交配作業】

- ① 整枝本数と交配節位
 - ・ 5〜6本整枝 / 4果着果 ↓ 20節前後の4番花を中心に一斉着花を狙いましょう。
 - ・ 4本整枝 / 3果着果 ↓ 16節前後の3番花を中心に一斉着果を狙いましょう。
- ② 交配が上手くいかず、着果がばらついた時には、再度ツルを引き直し、次の花で再度一斉着果を目指しましょう。着果がばらつくこと変形果や裂果、ツメ入り果の発生原因となります。

【ミツバチ交配の注意点】

- ・ ミツバチへ影響がある農薬散布については影響日数を考慮して行ってください。
- ・ 交配数日前から余裕をもって圃場に設置しましょう。
- ・ トンネル栽培では、必ずトンネルの両端に穴をあけ、ミツバチの逃げ穴を作ってください。

交配期間中にハウスやトンネルを閉め切ると過度な高温となりミツバチの体力を消耗させ、交配作業を行わなくなりますのでご注意ください。



ピーマン・ナス

灌水、追肥

気温の上昇に伴い、葉からの蒸散が盛んになります。また、着果量も多くなるため、灌水の間隔を短くし、液肥の量を増やすことも必要です。但し、窒素成分の高い液肥を一度に多く施用すると、尻腐れ果の原因となります。尻腐れ果の予防にCa液肥を月2回、5L/10aを流してください。また、尻腐れ果が少しでも発生した場合、即効性があり効果の高いカルシウム葉面散布剤を散布してください。

温度管理

午前中は、温度を25〜30℃程度に保ち、午後からは換気を中心に、夜温はピーマンでは、17〜18℃を、ナスでは、13℃を目安に管理してください。

整枝

早めに側枝の摘心や切り返しを行うとともに、内向枝を整理して側枝の吹きと果実の肥大を促進させてください。

病害虫防除

今後、気温の上昇とともに病害虫の発生も多くなることが懸念されます。換気扇や天窓等、隙間からの害虫進入にも注意してください。防虫ネットの設置や定期的な予防防除に努めてください。引き続き粘着テープの併用をお勧めします。ハウス入り口、サイドなど害虫が侵入しやすい場所に集中的に設置してください。

天敵放飼園

今後は、アブラムシの大量発生が懸念されます。さらにヨトウムシ、クロテンコナカイガラムシの発生に十分注意してください。(防除等については、営農指導員にお問い合わせください。)

キュウリ

日射量が徐々に強くなり、蒸散量が増してきます。1回の灌水量を一気に増やすと根痛みになりしおれの原因になります。1日の灌水を2回(複数回)に分けてしてください。例えば、ハウス内の気温が20℃を超えた時と25℃を超えた時の1日2回の灌水や、10分の灌水時間を朝、昼で5分ずつなどで行うようにしてください。蒸散に合わせた灌水を行うことで吸水しやすい管理になります。

摘葉は下、中段を中心に行い採光を確保し、節に適度な光を当てて良質な枝の発生を促すようにしてください。芯摘みは、節間長く細い枝、開花を伴わない枝を摘み、それ以外は放任あるいは様子見としてください。病害虫はべと病・うどんこ病・菌核病・灰色かび病・アザミウマ類、コナジラミ類の防除を行ってください。

豆類

とうすい・キヌサヤ



病害虫の発生に注意し適期防除を行ってください。特に降雨が多い場合

合、灰色かび病の発生が多くなりますので注意してください。

草勢の維持に努めると共に、適期収穫を心がけ、選果選別の徹底をお願いいたします。出荷物が雨等で濡れている場合、スレやムレ等の原因になりますので乾燥させて出荷してください。

○収穫が終了した圃場

栽培終了後は速やかに残渣の処理をお願いします。

また、今作で連作障害が発生した圃場では、土壌消毒の徹底と次年作の栽培圃場を検討してください。

ニンニク

摘蕾、収穫の時期に入ってきます。とうが伸びきってから少しうつぶいた時に摘蕾してください。摘蕾が早いと分球しやすく、遅いと、玉肥大が遅くなり着色の割合が高くなるので適期に実施してください。

収穫は、摘蕾後10〜14日後を目安に下葉が1/3程度黄変した頃で、摘蕾した切り口が萎んで茶色くなって、玉全体が角ばってきた頃に収穫してください。収穫が遅れると裂玉しやすくなるので注意してください。

花き類全般



スターチス

日射量が増え、温度が上昇するとともに開花ペースが速くなり、ガク

の退色が早くなりますので切り遅れの無いように採花を行ってください。また、色あせの軽減や品質を保つため、遮光ネットなどを利用してハウス内の温度や日射量を抑えてください。

採花間隔も短くなり、肥料、水分の吸収量も多くなりますので草勢の維持に努めてください。

また、病害虫の発生にも注意してください。特に、灰色かび病の発生に注意し、換気や防除薬剤のローテーション散布で発生防止に努めてください。

カスミソウ

内張りを外す際は、一気に外さず徐々に慣らしながらできるだけ曇雨天時に行い、葉焼けに注意してください。内張りを外した後、日中は生風に注意して十分換気を行ってください。

また、商品にならない下枝(ネットの高さ程度まで)は整理してください。うどんこ病、アザミウマ、アブラムシ、ハモグリバエ類等、病害虫の発生に注意し初期防除に努めてください。

スイートピー

温度、湿度ともに高くなってきますのでムレやシミの発生、草勢の低下に努めてください。また、病害虫が発生しやすくなりますので特にうどんこ病、アブラムシ類の発生に注意し初期防除に努めてください。